

# 第37回全国土地改良大会 山梨大会



発行所

甲府市蓬沢1-15-35  
山梨県自治会館5階  
電話 055(235)3653  
FAX 055(228)8174  
山梨県土地改良  
事業団体連合会  
会長 白倉政司



## 新年のご挨拶

水土里ネットやまなし  
(山梨県土地改良事業団体連合会)

会長 白倉政司

明けましておめでとうございます。

平成二十七年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員並びに関係者の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

昨年は、第三十七回全国土地改良大会山梨大会式典を十月三十日に甲府市のアイメッセ山梨で開催いたしましたところ、全国各地より来賓、関係者併せて約三、八〇〇名のご参加をいただき、盛大かつ成功裡に終了することができました。

また、翌日から十一月一日に実施しました事業視察におきましても、約一、三〇〇名のご参加をいたしました。

ただき、本県の国営・県営農業農村整備事業等で整備された施設などを熱心に視察していただきました。これもひとえに、農林水産省をはじめ、山梨県、県内市町村、水土里ネット及び関係団体等関係者皆様のご支援並びに参加者皆様のご理解とご協力の賜と衷心よりお礼申し上げます。

大会は、「富士の国やまなし」農業を次世代に水土里(みどり)育む土地改良を大会スローガンとし、先人達から引き継がれてきた農業に大切な「水」「土」「里」を、今生きる私達は、明日を担う次世代へ着実に引き継いでいる

農業の未来をひらく

みなさんの連合会です

◇農業農村整備事業調査設計

◇換地確定測量業務

◇施設の診断、相談等

経験豊かで信頼ある連合会へ



緑なすやすらぎのふる里を  
豊かな国土を守り育てる

土地改良を推進しよう

くことを広く全国に発信することが出来ました。

併せて、特色ある山梨の農業・農村の現状や、「果樹王国山梨」の農産物や「世界文化遺産富士山」をはじめとした多くの観光資源など、山梨の魅力を存分にPR出来たものと自負しております。平成二十七年度予算について、一月十四日に農林水産予算概算決定がされ、農業農村整備事業予算関係では、三、五八八億円、伸び率四・八パーセント、一六四億円の増額となつております。

本予算では、「強い農林水産業のための基盤づくり」として、農業競争力強化のための農地の大区画化・汎用性、新たな農業水利システムの構築、国土強靭化のための農業水利施設の長寿命化・耐震化対策、ため池の管理体制強化等に重点をおいています。

本会として、更なる技術力の向上を図るとともに、「水土里情報システム」を積極的に活用し、農地中間管理事業、多面的機能支払交付金等の各種施策の推進に貢献していくことを考えております。結びに、今後も、役職員が一体となつて、本会の業務運営に努力をして参りたいと考えておりますのでご支援、ご協力賜わりますようお願いを申します。

結びに、本県農業の発展、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ年頭の挨拶と致します。



明けましておめでとうございます。  
山梨県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、お健やかに新年を迎え、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から農業農村整備事業に深い理解とご協力を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみると、二月の記録的な豪雪をはじめ、豪雨、噴火、台風、地震が頻発した年でありました。被害に遭われた方々には、心からお見舞い申し上げます。

本県においても、二月の豪雪により、農業用ハウスなどに甚大な被害が発生し、県内農業は大きな打撃を受けました。

県としましても一日も早い営農の再開ができるよう、国の支援をいただきながら、関係機関と一緒に全力で取り組みを進めており、今後も継続して復旧復興に努めて参ります。

また、昨年の十月三〇日にアイメッセで開催された全国土地改良大会山梨大会は、全国から約三千八百人の農業農村整備に携わる関係者が参加し、大会式典や現地視察を通じて、本県の農業・農村の魅力を全国に情報発信できた有意義な大会となりました。そして、この大会が成功裏に終えることができましたことは、ひとえに大会の主催者であります山梨県土地改良事業団体連合会の皆様のご尽力によるものであり、心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

さて、国は昨年六月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改定し、農業を足腰の強い産業としていくための政策（産業

政策）と、農業農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための政策（地域政策）を車の両輪として、各種施策を着実に実行していくこととしています。

県におきましても、昨年度から農地中間管理機構を始動させ、農地の流動化を積極的に推進できる体制を整えて参りました。

今後は、新規就農者や企業などの多様な扱い手の農業参入を一層加速させるため、農地中間管理機構と基盤整備を絡めながら、農地の大区画化や汎用化の整備を行い、農業競争力を強化し、攻めの農業を促進して参ります。

また、日本型直接支払制度の下、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金を活用して、農業・農村の多面的機能の適切な維持・管理活動を支援し、地域の農地・農業用水などの地域資源を維持保全することで、本県農業の持続的な発展と、生産や生活の基盤である農村の振興を図つて参ります。

併せて、農村の安心・安全を確保するため、地域ニーズに応じた農業生産基盤の整備

や農業水利施設の老朽化対策など農業農村整備事業の充実強化を図つて参ります。最後に、山梨県土地改良事業団体連合会の益々のご発展と、会員の皆様の一層のご健勝とご活躍を祈念するとともに、災害のない穏やかな一年になりますよう心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





## 新年の挨拶

山梨県農政部耕地課長 渡邊祥司

明けましておめでとうございます。

山梨県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

また、平素から農業農村整備事業の推進にあたりまして、多大なご尽力とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は二月の豪雪や広島などの集中豪雨の被害、御嶽山をはじめとする火山の噴火、台風など自然災害が多発した年であります。

こうしたことから、国は、平時から大規模自然災害等に対する備えを行うことが重要であると考え、国土強靭化基本計画を策定しております。

県においても、国の動きに合わせ、災害に強く安心して暮らすことができる県土づくりを目指した山梨県国土強靭化地域計画を策定することとしております。

農政部では、昨年度までに実施した、ため池の一斉点検や耐震調査の結果を基に、対策が必要と判断されたため池等について、関係市町村と協議調整を図り、必要な追加調査や地域の実態に即した整備計画の策定を行うことなど、国土の強靭化に資する農村地域の防災減災対策を推進して参ります。

また、国は、農業の競争力強化に向け、昨年六月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂し、それに基づく農業改革を行っていくこととしています。

県では、こうした国の動きを踏まえながら、企業などの多様な担い手の農業参入を一層加速させるため、農地中間管理機構と

基盤整備を絡めながら、農地の大区画化や汎用化の整備などを重点的に実行して参ります。

併せて地域の課題となっている、鳥獣被害対策や老朽化した農業生産基盤の整備などの各種施策を総合的かつスピーディーに実行して参ります。

昨年の十月には、全国土地改良大会が山梨県で開催され、「富士の国やまなし発かけがえのない農業を次世代へ水土里（みどり）育む土地改良」をスローガンに掲げ、農業・農村の重要性や農業農村整備の役割を全国に発信することができた実りある大会となりました。

この大会の誘致活動から成功裏に終わるご活躍をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

最後に、山梨県土地改良事業団体連合会



の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の

## 富士の国やまなし発

# かけがえのない農業を次世代へ

## 水土里育む土地改良

### 第37回全国土地改良大会・山梨大会開催

#### 山梨大会開催

第三十七回全国土地改良大会・山梨大会が平成二十六年十月三十日（木）午後一時より、甲府市山梨県立産業展示交流館（アイメッセ山梨）において開催され、大会テーマ「富士の国やまなし発かけがえのない農業を次世代に水土里育む土地改良」のもと、全国から関係者総勢三、八〇〇名が参集しました。

山梨大会は農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、新たな農業の展開に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者の総力を挙げて我が国の農業・農村をさらに発展させ次世代に引き継ぐことを目的として開催しました。

式典には、小泉昭男農林水産副大臣、横内正明山梨県知事、棚本邦由県議会議長、小林祐一農林水産省農村振興局次長、県選出国会議員ら多数の来賓者の出席を頂きました。式典に先立ち、オープニングアトラクションとして「天野宣と阿羅漢」の太鼓演奏が披露され大会を盛り上げました。

式典に入り、開催県である水土里ネットやまなしの白倉政司会長が、「先人から引き継がれた水・土・里を次世代へ引き継ぐ責任があります。富士の国山梨よりご参集の皆様とともに発進したい。」と挨拶しました。続いて、主催者として全国水土里ネット野中広務会長が「まず、全国各地で台風やゲリラ豪雨、火山の噴火等により被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げ、農村部においては、農業は地域の根幹をなす重要な産業の一つであり、農業・農村の振興は地域再生には無くてはならないものと考えております。私ども土地改良関係者としましても、国の目指す方向に呼応し、ほ

うかと思いません。一方で、我が国の農業は、農業生産額の減少と高齢化の進展、耕作放棄地の増加等の構造的な問題に直面しています。このため、安倍内閣においては、農地集積バンクによる農地集積、本年六月に法制化した日本型直接支払の実施などの農政改革を進めることによって、農業を若者に魅力ある成長産業とし、農業・農村全体の所得倍増の実現につなげていきたいと考えております。

本年は、豪雪、豪雨、噴火、台風と災害が頻発しました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。私も四月に山梨県甲州市を訪れ、春先の豪雪で被害を受けた若手ブドウ農家の皆さんと懇談いたしました。また、横内正明山梨県知事、棚本邦由県議会議長が歓迎の挨拶の後、安倍晋三内閣総理大臣のメッセージが朗読されました。続いて来賓祝辞として小泉昭男農林水産副大臣が、「皆様におかれましては、地域のとりまとめ役として、土地改良に関わる永年の経験と見識を活かしていただき農業競争力強化、国土強靭化、農村の活性化の基盤となる農業農村整備の推進に引き続き尽力をお願いしたい」と水土里ネット関係者の一層の尽力に期待を寄せる旨の挨拶を頂きました。

### ● 基調講演・基調報告

#### 山梨県内優良事例地区紹介

#### ● 主催者・来賓者挨拶

式典入り、開催県である水土里ネットやまなしの白倉政司会長が、「先人から引

「第三十七回全国土地改良大会山梨大会・総理メッセージ」  
「第三十七回全国土地改良大会山梨大会」の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。日本は古来、瑞穂の国と呼ばれてきました。草を引き、あぜを守り、水を保つ。こうした営みが、日本の景観、国土、そして國柄を形づくってきました。まさに農業は國の基であり、先人たちの努力による美しい田園風景があつてこそ、麗しい日本ではないかと思います。

一方で、我が国の農業は、農業生産額の減少と高齢化の進展、耕作放棄地の増加等の構造的な問題に直面しています。このため、安倍内閣においては、農地集積バンクによる農地集積、本年六月に法制化した日本型直接支払の実施などの農政改革を進めることによって、農業を若者に魅力ある成長産業とし、農業・農村全体の所得倍増の実現につなげていきたいと考えております。

本年は、豪雪、豪雨、噴火、台風と災害が頻発しました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。私も四月に山梨県甲州市を訪れ、春先の豪雪で被害を受けた若手ブドウ農家の皆さんと懇談いたしました。厳しい状況にもめげず、力強く六次産業化や規模拡大への意欲を語ってくれたことがとても印象的でした。

我が国の農業を成長産業としていくためには、農業農村整備の推進も含め、政策を総動員することによって、農業の生産性と付加価値を高めていくことが重要です。明日の農業を切り拓く経営マインドをもつたやる気のある若い手が、今後ますます活躍できるよう、これからも農政改革に取り組んでまいります。

最後に、ご臨席の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十六年十月三十日  
内閣総理大臣 安 倍 晋 三

● 第37回全国土地改良事業功績者表彰

藤森理事長 農林水産大臣表彰受賞

小河原理事長 全国土地改良事業団体連合会会長表彰受賞

本県からは、塩川土地改良区藤森儀文理事長が、農林水産大臣表彰を小泉昭男農林水産副大臣より表彰状と記念品を授与されました。また、河口綜合土地改良区小河原彦一理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を四十五名の代表として表彰状と記念品を授与されました。

本県からは、塩川土地改良区藤森儀文理事長が、農林水産大臣表彰を小泉昭男農林水産副大臣より表彰状と記念品を授与されました。また、河口綜合土地改良区小河原彦一理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を四十五名の代表として表彰状と記念品を授与されました。

本県からは、塩川土地改良区藤森儀文理事長が、農林水産大臣表彰を小泉昭男農林水産副大臣より表彰状と記念品を授与されました。また、河口綜合土地改良区小河原彦一理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を四十五名の代表として表彰状と記念品を授与されました。

## 大 会 宣 言

豊かな水と緑、日照時間に恵まれた、ここ山梨は、本州のほぼ中央に位置し、首都圏にありながら、周囲を世界文化遺産の富士山をはじめ、八ヶ岳、南アルプスといった名峰に囲まれています。

本県においては、県土の約8割を森林が占め、農地の約3分の2が中山間地域であるという不利な条件にもかかわらず、先人達による水利開発や農地整備とともに農業者のたゆまぬ努力と工夫・経験に裏打ちされた高度な生産技術により、狭い農地でも高収入が得られる生産性の高い農業が展開されています。全国的に農業所得の向上が喫緊の課題とされる中で、本県の10a当たりの生産農業所得は、全国でも常に上位に位置しており、特にぶどう、もも、すももの生産量は全国一を誇り、「果樹王国やまなし」としての地位を築いています。

しかしながら、近年、農業・農村を取り巻く状況は、国際的な農産物流通の自由化や消費者ニーズの多様化など、大きく変化しており、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加、農村地域の高齢化など、多くの課題を抱えています。

一方、農業は気象状況に大きく左右される産業であり、近年の異常気象の影響もあり、災害が頻発化する傾向で、一度の災害で収穫が皆無という甚大な被害を受けることも稀ではありません。本県では、今年2月、過去に経験したことのない県内観測史上最大の大雪により、ビニールハウスなどの農業施設は壊滅的な被害を受けました。現在学んでいる農業大学校においても、野菜のハウスが倒壊してしまい、自然災害の恐ろしさを目の当たりにしたところです。

こうした中、政府は昨年12月、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を決定し、本年6月に同プランを改訂しました。このプランでは、農業を足腰の強い産業としていくための産業政策と、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るために地域政策を車の両輪として推進することとし、農地中間管理機構制度や日本型直接支払制度などの4つの改革に関係者が一体となって取り組み、若者たちが希望を持てる「強い農林水産業」と「美しく活力のある農山漁村」を創り上げていくこととしています。

農業を魅力ある産業にするため、私たちは、「我が国における食料の自給率向上と安定供給の確保」、「農業・農村の多面的機能の発揮」、「農業の持続的発展」、「農村の振興」などの必要性・重要性について、これまで以上に国民的理解の醸成を図っていくとともに、今こそ「農業農村整備事業の役割」を広く国民にアピールしていく必要があります。

また、国土強靭化基本計画に基づく生産基盤等の整備や農村の地域資源を有効に活用した太陽光・小水力発電などの再生可能エネルギーの普及を着実に行うことにより、地域の災害対応力の強化や地域資源の適切な保全管理を図り、災害に強く環境に優しい農業・農村を目指すことが、更なる農業・農村の発展と「水土里ネット」の躍進へと繋がるのではないかでしょうか。

農業・農村が健全であってこそ、豊かな国土や自然環境が維持されると思います。本日、ここに集う私たちをはじめとする「水土里ネット」の人々は、先人達から受け継がれてきた、かけがえのない農業・農村を次世代へ引き継いでいくことを、「水土里育む土地改良」を合い言葉に、ここ「富士の国やまな！」から高らかに宣言します。

平成26年10月30日  
第37回全国土地改良大会

旧・復興」「農業農村整備事業の展開方向」「農政改革と土地改良区」について講演。続いて、基調報告として水土里ネットいわて生内修事業調整監より「災害、津波から復興」、水土里ネットみやぎ 鈴木将行技監兼技術部長より「大震災の災害査定

における水土里情報システムの活用事例について」、水土里ネット福島小林剛 参事と兼務企画部長が「ふくしま復興・再生のあゆみ」と題して、それぞれの復旧・復興に向けた取り組みについて報告されました。

引き続き、山梨県内の優良事例地区を笛吹川沿岸土地改良区菊島好彦事務局長、明野茅ヶ岳土地改良区三井金彦常務理事が事業実施概要等を紹介されました。



大会旗引き継ぎ

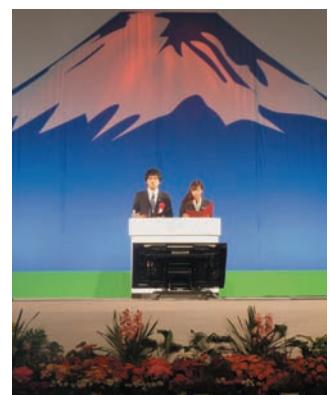
立農業大学校二年の石原晃平さんと窪田千香さんが朗読し、農業を魅力ある産業にするために、私達は「我が国における食料の自給率向上と安定供給の確保」、「農業・農村の多面的機能発揮」、「農業の持続的発展」、「農業の振興」などの必要性、重要性について、これまで以上に国民的理解の醸成を図つて行くとともに、今こそ『農業農村整備事業の役割』を広く国民にアピールしていく必要がある。「水土里ネット」の人々は、先人達から引き継がれてきた、かけがえのない農業を次世代に引き継いで行くことを、富士の国

## 校山梨県立農業大학교 学生による大会宣言



事業視察 白州地区

第三十八回全国土地改良大会を開催する  
青森県へ大会旗の引き継ぎが行われました。  
大会旗は、本年度開催の白倉山梨土連会  
長から野中全土連会長へ、野中会長より野  
上青森土連会長に力強く引き継がれました。  
続いて青森土連野上憲幸会長が、「青森の  
農業は、地域の特性をフルに生かし、米、  
畑作、果樹、畜産の生産で、全国でも有数  
のバランスのとれた農業を展開している土  
地改良を引き続き、力強い農業と魅力ある  
農村づくりに向けて水と土を守つて行く所



大會宣言



野中広務全土連会長挨拶

平成二十六年十一月二十五日(火) 東京都平河町砂防会館「シェーンバッハ・サボー」において、全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会の主催で、「農業農村の集い」が開催されました。この集いは、平成二十七年度の予算編成期を迎える大幅に予算削減が行われた農業農村整備事業について、我が国の根幹である農業・農村を支えるために必要不可欠な事

議員が出席しました。

集いは、野中広務全土連会長が主催者の挨拶を行い、続けて来賓として小泉昭男農林水産副大臣より祝辞を頂きました。続けて二階総務会長、稻田政調会長が挨拶し、両氏とも土地改良の重要性を強く訴え予算確保に努めることを力説しました。

農業農村整備事業の情勢報告、東日本大震災の事例発表がありました。その後、要請書及び緊急要請が採択され、ガバーナー三唱で盛会裡に集いが終了しました。

集い終了後、本県選出国會議員に対しても要請活動を行いました。

政府は農業・農村の所得倍増を目指し、「強い農林水産業」「美しい活力ある農山漁村」「国土強靭化」の実現に向け、農林水産業・地域活力創造プランや国土強靭化計画を決定し、種々の施策を展開しているところである。水土里ネットはこれまで培ってきた経験と技術を活用し、国が目指すべき方向の実現に向け、積極的な貢献を果たしていく覚悟の下、以上の厳しい現状と課題も踏まえて、次の事項の実現を国に強く要請する。

## 農業農村整備の集い

存である」と決意を述べました。青森大会は、水と土の防人としての想いを込め「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」をテーマに本年十月十五日に青森市内で開催されます。

### 併催行事開催

併催行事として、各団体出展の「パネル展」、山梨県農畜産物の特産品の展示・販

売、次期開催県「青森県」の紹介コーナー等を紹介しました。

### 事業観察

十月三十一日から十一月一日に事業観察が実施され、県内の農業先進地区へ日帰り二コース、一泊二日二コース、さらに独自バスでの観察を併せ約二、三〇〇名の参加がありました。

## 要請書

一、安定的・計画的な事業執行のために、平成二十七年度当初予算において、農業農村整備予算が復活したと実感でき、現場のニーズに十分応えられる規模を確保するとともに、農業の競争力強化につながる農地整備や国土強靭化の考えに即した防災・減災対策に対して重点的に処置すること。

二、TPPの交渉に当たっては、衆参両議院の各界議決を踏まえ、日本の食の安全・安心を担い、多面的機能を發揮している農業・農村とこれを支える農家の生産意欲に悪影響を及ぼすようなことは、国として断固行わないこと。

三、食料自給率の向上と担い手への農地集積の加速化を実現し、強い農業を開拓するため、水田の大区画化や汎用化畑地かんがい施設の整備をはじめとした各種の対策を、国が責任をもつて推進すること。

四、東日本大震災を始めとする災害からの復旧・復興に向け、農業用施設、農地海岸保全施設等の復旧や農地の大区画除染等の対策を加速的に進めること。

五、国民の財産を守り、我が国の食と農林漁業を再生するため、国土強靭化の考えに即して、ため池を含む老朽化した農業水利施設の保全整備や震災等の防災・減災対策を着実に推進すること。

### 記

八、農地中間管理機構をはじめとする農業の構造の推進に当たっては、土地改良区が有する技術と経験とともに水土里情報システムを活用する。

九、健全な農業生産活動には、水路、ため池等の農業用施設の適切な維持管理を実施している土地改良区の役割が重要。

一方、担い手への農地集積等により、今まで以上に高度な維持管理を求められているため、今後とも土地改良区が施設の適切な維持管理を行えるよう、運営基盤の強化を図ること。

者並びに市町村長、都道府県土地改良事業団体連合会代表者ら七〇〇人余りの参加があり、山梨県からは、野田正資徳島壩土地改良区理事長ほか一九名で参加しました。

農林水産省からは小泉昭男農林水産副大臣をはじめ農村振興局幹部、また、石破茂地方創生担当大臣、自民党の二階俊博総務会長、稻田朋美政調会長、衆参両院の国会議員が出席しました。

集いは、野中広務全土連会長が主催者の挨拶を行い、続けて来賓として小泉昭男農林水産副大臣より祝辞を頂きました。続けて二階総務会長、稻田政調会長が挨拶し、両氏とも土地改良の重要性を強く訴え予算確保に努めることを力説しました。

農業農村整備事業の情勢報告、東日本大震災の事例発表がありました。その後、要請書及び緊急要請が採択され、ガバーナー三唱で盛会裡に集いが終了しました。

農業経営の展開が可能となるように十分配慮すること。

四、東日本大震災を始めとする災害からの復旧・復興に向け、農業用施設、農地海岸保全施設等の復旧や農地の大区画除染等の対策を加速的に進めること。

五、国民の財産を守り、我が国の食と農林漁業を再生するため、国土強靭化の考えに即して、ため池を含む老朽化した農業水利施設の保全整備や震災等の防災・減災対策を着実に推進すること。

平成二十六年十一月二十五日

全国土地改良事業団体連合会  
会長 野中 広務  
副会長 吹田 健

都道府県土地改良事業団体連合会  
会長

## 平成27年度 農村振興関係予算概算決定

平成27年度予算について1月14日に農林水産予算概算決定がされました。そのうち、農業農村整備事業予算関係では、3,588億円、伸率4.8パーセント、164億円の増額となっています。

### 平成27年度 農業農村整備事業関係予算概算決定の概要

(単位：億円)

	平成26年度予算額	平成27年度概算予算額	対前年度比
農業農村整備事業	2,689	2,753	102.4%
農村漁村地域整備交付金(農業農村整備分)	735	735	100.0%
農地耕作条件改善事業(非公共)	—	100	皆増
計	3,424	3,588	104.8%

### 農業農村整備事業の概要

(単位：億円)

事 項	平成26年度予算額	平成27年度概算予算額	対前年度比(%)
農業農村整備事業			
国営かんがい排水	1,163	1,053	90.5%
国営農地再編整備	169	229	135.6%
国営総合農地防災	165	228	137.9%
直轄地すべり	15	19	125.0%
水資源開発	69	69	100.0%
農業競争力強化基盤整備			
うち農業競争強化基盤整備	324	341	105.1%
うち農業基盤整備促進	220	225	102.4%
うち農業水利施設保全合理化	45	45	100.0%
うち水利施設整備(農地集積促進型)	—	6	皆増
農村地域防災減災	274	280	102.4%
土地改良施設管理	152	155	101.9%
その他	92	102	110.3%
計	2,689	2,753	102.4%

(注) 計数は四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

謹んで新年の  
御祝詞を申し上げます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

平成二十七年元日

水土里ネットやまなし  
(山梨県土地改良事業団体連合会)

副会長	甲斐市長	保坂	武
専務理事	甲州市長	田辺	篠
理事	中央市長	田中久雄	啓
学識者	笛吹市長	倉嶋清次	
都留市長	堀内富久		
山梨市長	望月清		
身延町長	月仁司		
市川三郷町長	久保眞一		
丹波山村長	岡部政幸		
岡部政幸	野田正資		
藤森儀文	澤正彦		
小河原彥一	清水一也		
戸澤正彦	他職員一同		
改良区理事長	河口綜合土地改良		
監事	塙川土地改良		
総括監事	徳島振土地		
監事	改良区理事長		
参事	河口綜合土地改良		
総括監			

農業農村整備事業の調査設計・測量・換地確定測量業務

**農業集落排水事業**は最新の技術で応える土地連へ

山梨県土地改良事業団体連合会 土地改良相談室

### 建設コンサル登録：農業土木部門



〒400-8587 甲府市蓬沢1丁目15番35号 山梨県自治会館5階

TEL 055-235-3653 FAX 055-228-8174

URL : <http://www.yamanashi-doren.or.jp>

E-mail : syomu@yamanashi-doren.or.jp

10・14	全国土地改良大会説明会	アイメツセ山梨
10・29	第37回全国土地改良大会山梨大 会リハーサル	アイメツセ山梨
10・30	第37回全国土地改良大会山梨大 会式典	アイメツセ山梨
10・30	第37回全国土地改良大会山梨大 会歓会	甲府富士屋ホテル
10・30	事業観察	県内各所
11・10	農業農村工学会第38回講習会	鳥取県
11・11	関東一都九県土地改良事業団体 連合会協議会秋季総会	都道府県公館
11・11	農政推進大会	かいてらす
11・11	農業農村整備の集い	砂防会館
11・20	第7回やまなし農業・農村シン ポジウム	山梨県立文学館
12・2	農業農村整備振興部会	岩手県
12・3	第2回水土里情報利活用推進会 議幹事会	砂防会館
12・10	換地技術者育成確保連絡会議	茨城県
01・15	農業会議常任会議員会議	甲府市
02・2	摺廻	県内各所
02・6	第2回農業農村技術研修会	自治会館講堂
02・3	第37回全国土地改良大会運営委 員会・幹事会合同会議	石和町

おとがき

あけましておめでとうございます  
昨年は、第37回全国土地改良大会開催に当たり、県内外より総勢三、八〇〇名のご参加を頂きまして成功裡に終えることが出来ましたことに、知事をはじめ、県内の関係各位に対しまして改めて感謝を申し上げます。皆様のおもてなしの心で県外の参加者も大変満足して頂けたと思います。  
当連合会では、この大会の成功が大きな自信となり、技術力をさらに向上させ、新しい政策等に積極的に取り組んで参る所存であります。今年は羊年。羊は群れを創り行動します。当会も羊の様に団結し業務に邁進したいと考えております。  
今年も、会員の皆様の意見を反映し職員一同、一層の努力をして参りますのでご支援、ご協力をお願い致します。